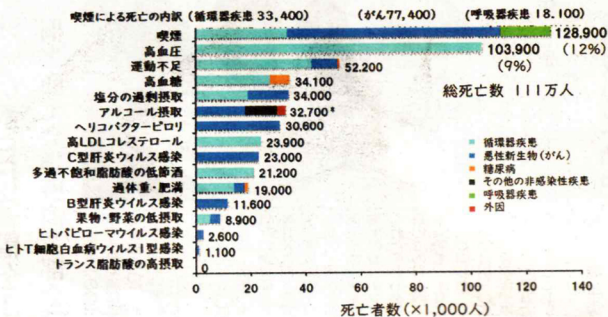


図 わが国における危険リスク要因に関連する非感染性疾患による死亡数 (2007年)



Ikeda N.PLoS Med 9(1): e1001160から引用



【プロフィール】広島県生まれ。1976年広島大学医学部卒業後、聖路加国際病院内科勤務。99年東京医科大学循環器内科主任教授。2020年5月から現職。総合内科専門医、日本循環器学会専門医、前日本循環器病予防学会理事長。

※次回は一喫煙者の寿命は？です。

7.5%)と続きますが、その予防にはこれらの疾患の原因となるリスク要因対策が重要です。

図は07年のわが国に動不足、高血糖、塩分、占めます。その内訳は、がん(約7・7万人)、循環器疾患(約3・3万人)、肺疾患(約1・8万人)です。第2位の要因である高血圧が、

占めます。その内訳は、がん(約7・7万人)、循環器疾患(約3・3万人)、肺疾患(約1・8万人)です。第2位の要因である高血圧が、

③9 たばこによる健康被害

「NCDsを共存し、運動不足、喫煙、過度の飲酒、大気汚染など、非感染性疾患」の略が、糖原病、循環器疾患、呼吸器疾患、メンタ

W.H.O.の最近の報告を、予防や治療を通じ

人生100年時代の健康管理

ルヘルスをはじめとでは世界の死因の71%がNCDsによるもの、国際的にもNCDsの予防や疾病管理を促進する動きが拡大しています。2018年の国連総会で、「2030年までに、NCDsによる早期死亡を、予防や治療を通じ

保健・福祉

◆毎週月曜連載 桐生大学・桐生大学短期大学部副学長の山科章さんは、同大学医療保健学部の学生などに講義も開講している。